



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社マツキヨココカラ&カンパニー

コード番号 3088 URL <https://www.matsukiyococokara.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松本 清雄

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員グループ管理統括財務戦略室長 (氏名) 西田 浩 (TEL) 03-6845-0005

四半期報告書提出予定日 2022年8月12日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績 (2022年4月1日~2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	227,209	65.3	12,360	72.8	13,563	69.8	7,930	56.2
2022年3月期第1四半期	137,486	-	7,151	-	7,990	-	5,078	-

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 8,874百万円 (67.1%) 2022年3月期第1四半期 5,310百万円 (-%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	56.11	56.10
2022年3月期第1四半期	49.67	49.65

1) 2022年3月期第1四半期の各数値については、会計方針の変更に伴い遡及適用が行われたため、遡及適用後の数値を記載しています。なお、2022年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率は、遡及適用が行われたため記載しておりません。

2) 当第1四半期連結累計期間における上記営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益には、当社が旧株式会社ココカラファインとの経営統合(経営統合日:2021年10月1日)に伴い発生した、のれん償却費1,572百万円、商標権償却費236百万円が含まれております。これを控除した後の営業利益は14,170百万円(98.1%)、経常利益は15,372百万円(92.4%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は9,739百万円(91.8%)であります。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第1四半期	652,118	464,060	71.1	3,282.52
2022年3月期	652,524	460,130	70.5	3,255.22

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 463,930百万円 2022年3月期 460,062百万円

2022年3月期は会計方針の変更に伴い遡及適用が行われたため、遡及適用後の数値を記載しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	35.00	-	35.00	70.00
2023年3月期	-	-	-	-	-
2023年3月期(予想)	-	40.00	-	40.00	80.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2023年3月期配当予想の内訳 普通配当 70円00銭 記念配当 10円00銭

3. 2023年3月期の連結業績予想 (2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	460,000	66.1	22,000	41.0	24,000	44.8	14,300	40.4	101.18
通期	950,000	30.1	53,000	29.0	57,000	27.9	35,000	1.8	247.65

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 会計方針の変更に伴い遡及適用が行われたため、対前期増減率および対前年同四半期増減率は、遡及適用後の前期の数値を用いて算出しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 有
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	142,966,710株	2022年3月期	142,966,710株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	1,633,116株	2022年3月期	1,636,020株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	141,331,166株	2022年3月期1Q	102,232,208株

(注) 期末自己株式数には、「役員報酬BIP信託口」及び「株式付与ESOP信託口」が保有する当社株式(2023年3月期1Q 150,058株、2022年3月期 126,318株)が含まれております。また、「役員報酬BIP信託口」及び「株式付与ESOP信託口」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、添付資料の4ページをご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報)	10
(収益認識関係)	12
3. 補足情報	13
売上及び仕入の状況	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(1) 経営成績

当第1四半期連結累計期間(2022年4月1日～2022年6月30日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の厳しい状況が緩和され、社会経済活動が正常化に進む中で、個人消費や企業収益、雇用・所得環境に持ち直しの動きが続いておりますが、原材料価格の上昇や供給面での制約に加え、金融資本市場の変動等による下振れリスクにより、先行き不透明な状況が続いております。

ドラッグストア業界におきましても、業種・業態を越えた競合企業の新規出店、商勢圏拡大に向けた新たなエリアへの侵攻、M&Aによる規模拡大、同質化する異業種との競争、それらが要因となる狭小商圏化など、当社を取り巻く経営環境は厳しい状況が継続しております。

このような環境の中、当社グループの重点戦略は国内とグローバルに分け設定し、国内戦略として「お客様のライフステージに応じた価値提供」を戦略テーマに3つの重点戦略、①利便性の追求-お客様との繋がりの深化、②独自性の追求-体験やサービス提供の新化、③専門性の追求-トータルケアの進化と、グローバル戦略として「アジア市場での更なるプレゼンス向上」を戦略テーマに④グローバル事業の更なる拡大を重点戦略として設定し、経営統合によるシナジー実現に取り組みました。PB(プライベートブランド)商品につきましては、順次新商品の展開を進めております。2022年6月末現在における当社グループの顧客接点数は、1億1,926万となり、国内店舗数は3,353店舗(うち調剤薬局数875店舗、健康サポート薬局数142店舗)となりました。今後も4つの重点戦略を実行することで収益改善を図ってまいります。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における主な経営成績は次のとおりであります。

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	137,486	227,209	89,723	65.3
営業利益	7,151	12,360	5,208	72.8
経常利益	7,990	13,563	5,573	69.8
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,078	7,930	2,852	56.2

このうち、当第1四半期連結累計期間における上記営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益には、当社が旧株式会社ココカラファインとの経営統合(経営統合日:2021年10月1日)に伴い発生した、のれん償却額1,572百万円、商標権償却費236百万円が含まれております。これを控除した後の営業利益は14,170百万円(98.1%)、経常利益は15,372百万円(92.4%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は9,739百万円(91.8%)であります。

セグメントの業績は次のとおりであります。

2021年10月1日付で実施された株式会社ココカラファイングループ（旧株式会社ココカラファイン）との経営統合に伴い、報告セグメントを従来の「小売事業」「卸売事業」「管理サポート事業」から「マツモトキョシグループ事業」「ココカラファイングループ事業」「管理サポート事業」の3区分に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメント区分に基づき作成したものを記載しております。

		前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
マツモトキョシ グループ事業	売上高	134,361	134,802	441	0.3
	セグメント利益又は セグメント損失(△)	7,543	8,909	1,366	18.1
ココカラファイン グループ事業	売上高	—	91,911	91,911	—
	セグメント利益又は セグメント損失(△)	—	3,548	3,548	—
管理サポート 事業	売上高	97,440	140,740	43,300	44.4
	セグメント利益又は セグメント損失(△)	△464	3,996	4,461	—
調整額	売上高	△94,314	△140,244	△45,929	—
	セグメント利益又は セグメント損失(△)	73	△4,094	△4,167	—
合計	売上高	137,486	227,209	89,723	65.3
	セグメント利益又は セグメント損失(△)	7,151	12,360	5,208	72.8

このうち、当第1四半期連結累計期間における上記ココカラファイングループ事業のセグメント利益3,548百万円には、当社が旧株式会社ココカラファインとの経営統合（経営統合日：2021年10月1日）に伴い発生した、のれん償却額1,572百万円、商標権償却費236百万円が含まれております。これを控除した後のセグメント利益は5,358百万円であります。

<マツモトキョシグループ事業>

4つの重点戦略に対して、①利便性の追求-お客様との繋がり深化として、社会全体のデジタル化が進み、お客様のライフスタイルが変化しつつある中で、一人ひとりのお客様と深く繋がっていくことでニーズを的確に捉え、最も身近な存在となる必要と考えております。そのため、デジタルと店舗網を活用したお客様に届ける仕組みづくり、様々な買い物スタイルの提供など、利便性を追求していくことで、お客様により深く寄り添う営業を目指しております。マツモトキョシグループの顧客接点数は、2022年6月末現在、9,138万まで拡大いたしました。

②独自性の追求-体験やサービス提供の新化として、激しい競争環境の中で、お客様との様々な接点から蓄積されたデータと高いマーケティング分析力を活かし、お客様の価値観に基づいた商品・サービスや店舗モデルの開発、メーカー様向け広告配信事業の展開など、マツモトキョシグループならではの独自性を追求していくことで、お客様に選ばれる企業を目指しております。PB商品につきましては、美白機能に特化した「ザ・レチノタイム ホワイト」の展開をスタートしたほか、「レプリカノーツ」「matsukiyo LAB」「matsukiyo」からそれぞれ新商品を発売いたしました。

③専門性の追求-トータルケアの進化として、少子高齢化が進み、健康長寿社会の実現を目指すわが国においては、様々なお客様のライフステージに応じた質の高いサービスを提供することで、地域社会により大きな安心と喜びを提供していくことが求められていると考えております。そのため、セルフメディケーションの推進やオンラインを活用した服薬指導・接客などに加え、心と身体の両面でのビューティーケアなど、専門性を追求していくことで、地域包括ケアシステムを支え、すべての人がいつまでも美しく、健康で心豊かな生活を送れるよう取り組んでおります。調剤薬局数は380店舗となり、厚生労働省の認可を受けた健康サポート薬局数は36店舗となりました。また、薬局経営支援サービスである調剤サポートプログラムの加盟店舗数は172店舗まで拡大いたしました。

④グローバル事業の更なる拡大では、アジアを中心とした新たな進出国の開拓や海外店舗展開、越境EC事業の拡大を図るため、海外SNSの活用やグローバル会員獲得によるアプローチ強化、グローバルで活躍する人材の開発、海外で支持される商品の開発などに積極的に取り組むことで、美と健康への意識が高まっているアジア地域での事業規模拡大とプレゼンス向上を目指しております。海外店舗展開として、香港に新規出店し、2022年6月末の海外店舗数は、タイ王国で24店舗、台湾で20店舗、ベトナム社会主義共和国で3店舗、香港で2店舗の合計49店舗となりました。

<ココカラファイナングループ事業>

「利便性の追求-お客様との繋がり深化」「独自性の追求-体験やサービス提供の新化」「専門性の追求-トータルケアの進化」という3つの国内重点戦略に対して、マツモトキョシグループと同様の取り組みを実行いたしました。なお、2022年6月末現在、顧客接点数は2,788万、調剤薬局数は495店舗となり、健康サポート薬局数は106店舗となりました。

国内店舗の出退店の状況につきましては、次のとおりであります。

	(単位：店舗)			
	2022年3月31日 現在の店舗数	出店	閉店	2022年6月30日 現在の店舗数
マツモトキョシグループ	1,808	26	10	1,824
ココカラファイナングループ	1,517	15	3	1,529
合計	3,325	41	13	3,353

<管理サポート事業>

当事業は、当社グループ会社を取り扱う商品の仕入や当社グループ会社の経営管理・統轄、その間接業務の受託業務及び、外部への商品供給・施工業務等を行っており、経営統合により業務活動の範囲も拡大しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末に比べて4億5百万円減少して6,521億18百万円となりました。これは主に商品が43億10百万円増加したものの、売掛金が18億30百万円、のれんが16億37百万円、現金及び預金が14億49百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

負債につきましては、43億35百万円減少して1,880億58百万円となりました。これは主に買掛金が52億15百万円増加したものの、未払法人税等が97億72百万円減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、39億29百万円増加して4,640億60百万円となりました。これは主に、利益剰余金が29億79百万円、その他有価証券評価差額金が8億78百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、2022年5月13日に公表した連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	74,519	73,069
売掛金	51,852	50,021
商品	131,104	135,415
貯蔵品	683	686
その他	40,102	40,148
貸倒引当金	△48	△45
流動資産合計	298,215	299,295
固定資産		
有形固定資産		
土地	52,763	52,727
その他	54,363	55,426
有形固定資産合計	107,126	108,154
無形固定資産		
のれん	119,046	117,409
その他	24,318	24,209
無形固定資産合計	143,365	141,619
投資その他の資産		
投資有価証券	22,528	23,871
敷金及び保証金	60,889	61,423
その他	20,672	18,027
貸倒引当金	△273	△273
投資その他の資産合計	103,816	103,049
固定資産合計	354,308	352,823
資産合計	652,524	652,118

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	92,501	97,717
未払法人税等	11,538	1,765
短期借入金	884	1,102
賞与引当金	5,709	3,049
ポイント引当金	129	161
契約負債	5,268	5,359
資産除去債務	18	13
その他	26,398	27,947
流動負債合計	142,449	137,118
固定負債		
長期借入金	18,400	18,400
債務保証損失引当金	242	254
株式給付引当金	168	201
役員株式給付引当金	39	39
退職給付に係る負債	5,932	5,982
資産除去債務	10,268	10,505
その他	14,892	15,555
固定負債合計	49,944	50,940
負債合計	192,393	188,058
純資産の部		
株主資本		
資本金	22,051	22,051
資本剰余金	205,937	205,959
利益剰余金	232,052	235,032
自己株式	△6,439	△6,455
株主資本合計	453,602	456,588
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,549	7,428
為替換算調整勘定	△62	△59
退職給付に係る調整累計額	△26	△27
その他の包括利益累計額合計	6,460	7,341
新株予約権	43	43
非支配株主持分	24	86
純資産合計	460,130	464,060
負債純資産合計	652,524	652,118

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	137,486	227,209
売上原価	95,376	150,534
売上総利益	42,109	76,674
販売費及び一般管理費		
ポイント引当金繰入額	11	1
給料及び手当	11,868	22,795
賞与引当金繰入額	1,745	2,796
退職給付費用	281	605
地代家賃	9,422	16,463
その他	11,627	21,651
販売費及び一般管理費合計	34,957	64,313
営業利益	7,151	12,360
営業外収益		
受取利息	19	30
受取配当金	157	165
固定資産受贈益	152	151
発注処理手数料	271	521
情報提供料収入	62	156
持分法による投資利益	140	—
その他	59	218
営業外収益合計	862	1,244
営業外費用		
支払利息	13	10
債務保証損失引当金繰入額	—	12
現金過不足	1	0
その他	9	18
営業外費用合計	24	41
経常利益	7,990	13,563
特別損失		
固定資産売却損	14	1
固定資産除却損	58	66
店舗閉鎖損失	22	84
減損損失	74	22
災害による損失	—	28
新型コロナウイルス感染症による損失	106	—
特別損失合計	276	202
税金等調整前四半期純利益	7,713	13,360
法人税、住民税及び事業税	1,821	1,445
法人税等調整額	814	3,923
法人税等合計	2,635	5,368
四半期純利益	5,078	7,992
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	61
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,078	7,930

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	5,078	7,992
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	246	878
退職給付に係る調整額	—	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	—
為替換算調整勘定	△10	3
その他の包括利益合計	232	881
四半期包括利益	5,310	8,874
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,310	8,812
非支配株主に係る四半期包括利益	—	61

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(商品の評価方法変更)

マツモトキヨシグループ事業の商品の評価方法は、従来、売価還元法による低価法を採用しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）に変更しております。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度については遡及適用後の連結財務諸表となっています。

この変更は、株式会社ココカラファイングループ（旧株式会社ココカラファイン）との経営統合を契機として、適正な商品の評価及び期間損益計算並びにグループ会計方針統一の観点から商品の評価方法について再度検討したことによるものです。

検討の結果、当社グループの保有する商品の動きと整合する総平均法をグループとして採用することが、商品の評価及び期間損益計算の観点から合理的であり、かつ当社グループの経営実態をより適切に反映すると判断し、マツモトキヨシグループ事業の在庫管理システム改修が完了し、総平均法による計算が可能となったことに伴い、当第1四半期連結会計期間より変更するものであります。

この結果、遡及適用を行う前と比べて、前連結会計年度の連結貸借対照表は、商品が6,172百万円減少しております。前第1四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書は売上原価が204百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ204百万円減少しております。また、前連結会計年度の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、利益剰余金の前期首残高は4,000百万円減少しております。

なお、セグメント情報に与える影響は11ページ「セグメント情報等」に記載しております。

(時価の算定に関する会計基準)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	マツモトキヨシ グループ事業	ココカラファイン グループ事業	管理サポート 事業	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益計算 書計上額(注)2
売上高						
外部顧客への売上高	134,353	—	3,133	137,486	—	137,486
セグメント間の 内部売上高又は振替高	8	—	94,306	94,314	△94,314	—
計	134,361	—	97,440	231,801	△94,314	137,486
セグメント利益又は セグメント損失(△)	7,543	—	△464	7,078	73	7,151

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額73百万円には、セグメント間取引消去73百万円が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位とし、遊休資産については物件単位ごとにグルーピングしております。営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループ及び土地等の時価の下落が著しい資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額74百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

報告セグメントごとの計上額は、「マツモトキヨシグループ事業」で74百万円となっております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	マツモトキヨシ グループ事業	ココカラファイン グループ事業	管理サポート 事業	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益計算 書計上額(注)2
売上高						
外部顧客への売上高	134,551	91,841	816	227,209	—	227,209
セグメント間の 内部売上高又は振替高	250	69	139,924	140,244	△140,244	—
計	134,802	91,911	140,740	367,454	△140,244	227,209
セグメント利益	8,909	3,548	3,996	16,454	△4,094	12,360

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△4,094百万円には、セグメント間取引消去△4,094百万円が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位とし、遊休資産については物件単位ごとにグルーピングしております。営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループ及び土地等の時価の下落が著しい資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額22百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

報告セグメントごとの計上額は、「マツモトキヨシグループ事業」で18百万円、「ココカラファイングループ事業」で3百万円となっております

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの区分の変更)

2021年10月1日付で実施された株式会社ココカラファイン(2021年10月1日付で商号を株式会社ココカラファイングループに変更しております)との経営統合に伴い、前第3四半期連結会計期間より報告セグメントを従来の「小売事業」「卸売事業」「管理サポート事業」から「マツモトキヨシグループ事業」「ココカラファイングループ事業」「管理サポート事業」の3区分に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメント区分に基づき作成したものを記載しております。

(会計方針の変更の適用)

(会計方針の変更)に記載のとおり、マツモトキヨシグループ事業の商品の評価方法は、従来、売価還元法による低価法を採用していましたが、当第1四半期連結会計期間より総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)に変更しております。

この変更は、株式会社ココカラファイングループ(旧株式会社ココカラファイン)との経営統合を契機として、適正な商品の評価及び期間損益計算並びにグループ会計方針統一の観点から商品の評価方法について再度検討したことによるものです。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の利益又は損失の算定方法により作成したものを記載しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、前第1四半期連結累計期間のマツモトキヨシグループ事業の売上原価が204百万円増加し、セグメント利益が204百万円減少しております。

(追加情報)

当社は2021年10月1日付けで純粋持株会社体制へ移行し、2022年4月1日にはグループ内の子会社の再編を実施するなどグループ業績管理体制を見直しております。また、当第1四半期連結会計期間より新たなグループ配当基本方針を策定し、グループ内配当を実施しております。これに伴い、当第1四半期連結会計期間より、管理サポート事業セグメントにおいて、各グループ会社から収受する受取配当金3,875百万円を売上高(セグメント間の内部売上高又は振替高)の表示区分で計上しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報では、各報告セグメントの売上高を顧客との契約から生じる収益とその他の収益に分解し、さらに顧客との契約から生じる収益を、小売販売に係る売上高とそれ以外の売上高に分解しております。

前第1四半期連結累計期間（自2021年4月1日至2021年6月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計
	マツモトキヨシ グループ事業	ココカラファイン グループ事業	管理サポート 事業	
小売				
医薬品	39,840	—	—	39,840
化粧品	46,723	—	—	46,723
雑貨	28,457	—	—	28,457
食品	12,768	—	—	12,768
その他（注）1	6,048	—	3,109	9,157
顧客との契約から生じる収益	133,837	—	3,109	136,947
その他の収益（注）2	515	—	24	539
外部顧客への売上高	134,353	—	3,133	137,486

(注) 1 卸売事業における売上高、広告宣伝に係る売上高等が含まれます。

2 企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づく不動産賃貸収入が含まれます。

当第1四半期連結累計期間（自2022年4月1日至2022年6月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計
	マツモトキヨシ グループ事業	ココカラファイン グループ事業	管理サポート 事業	
小売				
医薬品	39,608	36,568	—	76,177
化粧品	45,756	27,181	—	72,938
雑貨	28,738	18,760	—	47,499
食品	12,731	7,637	—	20,368
その他（注）1	7,165	1,581	701	9,448
顧客との契約から生じる収益	134,000	91,730	701	226,432
その他の収益（注）2	551	110	115	777
外部顧客への売上高	134,551	91,841	816	227,209

(注) 1 卸売事業における売上高、広告宣伝に係る売上高等が含まれます。

2 企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づく不動産賃貸収入が含まれます。

3. 補足情報

売上及び仕入の状況

(1) 事業部門別売上状況

当第1四半期連結累計期間の売上実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
マツモトキヨシグループ事業	134,551	0.1%
ココカラファイングループ事業	91,841	—%
管理サポート事業	816	△73.9%
合計	227,209	65.3%

(注) セグメント間の取引については相殺消去しております。

(2) 商品別売上状況

当第1四半期連結累計期間の売上実績を商品ごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
医薬品	76,177	191.2%
化粧品	72,938	156.1%
雑貨	47,499	166.9%
食品	20,368	159.5%
合計	216,983	169.8%

(注) 商品別売上状況は管理サポート事業を除いております。また、上記の金額には営業収入(テナントからの受取家賃及びフランチャイジーからのロイヤルティ収入等)は含まれておりません。

(3) 商品別仕入状況

当第1四半期連結累計期間の仕入実績を商品ごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
医薬品	48,018	190.1%
化粧品	49,373	157.5%
雑貨	33,039	162.6%
食品	17,528	155.7%
合計	147,959	167.8%

(注) 商品別仕入状況は管理サポート事業を除いております。